

こんにちは。図書館員のひみつの本棚も今回で10回目を迎えました！これからも楽しい本をたくさん紹介していきますので、楽しみにしてくださいね。

今年は暖冬ですが、暖冬とはいってもやはり冬は寒いものです。今月紹介するのは寒いところではない極寒の地、南極大陸を目指した一人の冒険家の物語です。

『エンデュアランス号大漂流』

エリザベス・コーディキメル 著 千葉 茂樹 訳 あすなろ書房 1470円

地理・伝記

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★★★ 中学★★★★
高校★★★★ 一般 ★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

南極大陸を目指した冒険家は数多くいますが、その中でも後の冒険家達が本当の危機に見舞われた時祈りをささげるのは、この本の主人公シャクルトンです。シャクルトンこそ数々の困難を不屈の精神で乗り越えた冒険家だからです。けれども、彼の南極への冒険は「偉大なる失敗」でした。そう、彼は南極大陸にはたどりつけなかったのです。そんな彼がなぜ、他の冒険家たちから尊敬されるのか？それは彼が2年もの間漂流を続けたにも関わらず、数々の困難を乗り越え、26名もの隊員の命を守りきり無事祖国へと帰ってきたからです。2年もの漂流。考えただけでもぞっとしますよね。途中で船も、食料も、何もかもなくなってしまいます。そんな時、彼が一番大切にしたのはユーモアでした。困難を前にして心の健康を保つにはユーモアが必要だということを知っていたのです。彼らは数々の困難をどのように乗り越えていったのか？彼らの冒険は失敗であったにも関わらず、私たちに勇気と希望を与えてくれます。「エンデュアランス」それは「不屈の精神」という意味。シャクルトンそのものといえるでしょう。

<子どもに手渡すときのポイント>

小学校中学年から大人まで楽しめる本です。ノンフィクションなので、物語にあまり興味を示さない子どもでもぐいぐい引き込まれていきます。また、写真や図などもたくさん載っているので、字だけの本が苦手な子どもにもお勧めです。もし、この本を気に入った子どもがいたら、ぜひエンデュアランス号の事を書いた他の本も紹介してみてください。以下紹介する本は一般書になりますが、中には写真を多数掲載してあるものもあるので、興味のある子どもはそれだけでも楽しめるでしょう。また、中学生や高校生はこれを機会に少し難しい本に挑戦してみるのもいいかもしれません。



『エンデュアランス号 シャクルトン南極探検の全記録』

キャロライン・アレグザンダー著 フランク・ハーレー写真 畔上 司訳

ソニーマガジンス

『エンデュアランス号奇跡の生還』

アーネスト・シャクルトン著 奥田 祐士訳 ソニーマガジンス

『エンデュアランス号漂流』

アルフレッド・ランシング著 山本 光伸訳 新潮社

『南へ』

アーネスト・シャクルトン著 奥田 祐士共訳 森平 慶司共訳 ソニーマガジンス

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか